

飛島の初冬と清掃活動の現状

最近、飛島では冬の訪れを感じるようになりましたが、残念ながら強風の影響で定期船が7日連続で欠航しています。その結果、島には枯葉や枯木が散乱し、除去作業に取り組んできました。

特に、島の1本道である農免道路では、背の高い木が道を覆い、枯葉や木の枝が散乱しています。横に伸びた木を切る作業を行いましたが、根本から切らなければ問題の解決には至らないと感じています。また、切った後の木や枝が道脇に放置されている現状も課題です。

12月10日には、法木の方々とともに八幡神社の清掃を行いました。しかし、10年後にも島民が自主的に清掃活動が続けられるかは不透明です。高齢化と人手不足は、どの地域においても共通の課題となっています。



八幡神社の清掃活動の様子↑

土器

飛島は長い歴史の中で交通や貿易の要所として栄えた島で、西海岸で目を凝らすと、今でも赤焼土器の欠片が見られ、島の歴史やロマンを感じることができます。

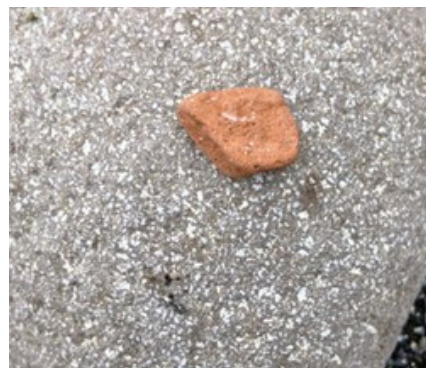
Tobishima 協力隊通信

令和7年

1月

構成・文責：

飛島地区地域おこし協力隊粕谷玲緒
とびしま総合センターTEL 95-2001



土器の破片と見られるもの↑

とびしま総合センタークリスマス仕様

クリスマスが近づく12月中旬、とびしま総合センターが特別なクリスマス仕様に装飾されました。センターの職員が主体となって進められたこのプロジェクトでは、かつてセンターに在籍していた方々も参加し、装飾が行われています。ツリーの様子は日々変化しており、訪れるたびに新しい魅力を発見できます。

夜になると、センター前のツリーが美しくライトアップされ、まるで幻想的な世界に包まれたかのように見えます。この特別な雰囲気は、センターを訪れる人々に喜びと感動をもたらし、心温まるクリスマスの思い出を作ることでしょう。皆さんもぜひ、とびしま総合センターのクリスマスの様子を見に来てください！



←センター前の飾りつけ中の様子